

## 第10回江南市市民協働・市民活動推進協議会 会議要旨

会議名：第10回江南市市民協働・市民活動推進協議会

開催日時：令和元年11月14日（木）午後2時00分～午後3時45分

場所：江南市役所西分庁舎1階 多目的活動室

委員：出席委員9名

伊藤 由香（学識経験者）

後藤 正敏（公募市民）

中村 健一（公募市民）

真野 由夏（公募市民）

齋藤 雅治（市民活動団体関係者）

早瀬 裕子（市民活動団体関係者）

水野 浩子（市民活動団体関係者）

伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会職員）

河田 正広（市職員）

事務局：片野 富男（企画部長）

稲波 克純（地方創生推進課主幹）

梶浦 太志（地方創生推進課地域協働グループリーダー）

原 知美（地方創生推進課地域協働グループ）

資料1：NPO・ボランティア講座等の改称について（案）

議題	1. 市民・協働ステーションについて
	2. 地域まちづくり補助事業について
	3. その他

## 議題

### 1. 市民・協働ステーションについて

○事務局から、布袋駅東複合公共施設に移設後の市民活動に関する委託業務について説明がありました。

齋藤委員	<p>市民協働・市民活動推進協議会について、委員の中にセンターの職員又は受託団体のメンバーを含めると利用状況の把握や運用ルールについて、こまめに見直しができ、さらに利用者と管理者の話し合いの場にもなると思います。</p> <p>また、NPO 法人や他市町村のセンター視察などの勉強会を1~2年に1回出来ると良いと思います。</p> <p>さらに、市役所の他の課の職員と協働できる事業についての検討会も開催してほしいです。</p>
会長	<p>現在、新たな協働事業を進める際にはどのようにしていますか。</p>
事務局	<p>地方創生推進課に話があった場合は、担当課に連絡をし、担当課と事業内容の検討を進めてもらいます。</p>
齋藤委員	<p>現在、市民協働・市民活動推進協議会は、まちづくり補助金のことについて多くの時間、協議していますが、センターが出来た後は、今まで協議していた議題だけではなく、センターの運営についても話をしなければいけなくなります。</p>
水野委員	<p>団体と団体を繋げてもらう事をしてほしいです。似たような活動をしている団体が協働という形で活動できる場があれば、個々でイベントを行うよりも事業の拡大、来場者の増加が見込めるのではないのでしょうか。</p> <p>私が所属している団体は現在、愛知江南短期大学内の施設をお借りして「親子の happy spot」という子育て支援イベントを複数の団体で実施しています。これは、子育て支援団体同士で上手く声を掛ける事が出来たため、協力して開催に至りました。少しずつ声を掛け、団体の輪を広げていますが、市内の子育て支援団体は多くあるため、まだこのイベントに参加できていない団体もあります。</p> <p>他の団体と付き合いのない団体も多くあると思うので、団体の間に入ってもらう方がいるとスムーズに話が進むと思います。それに伴い、中間に入る団体には、様々な情報を持っていただきたいです。</p>
早瀬委員	<p>活動を始めたけれど、どこに登録すればいいのか、相談すればいいのか分からなくなる団体もあると思います。そういった団体の拾い上げをしていただきたいです。</p>

齋藤委員	<p>仕様書には、「相談業務」と「マッチング業務」を別で記載した方がいいですね。</p> <p>まちづくり補助金について、採択・交付まで委託先をお願いする認識で良かったですか。</p>
事務局	<p>現在行っているまちづくり補助金をそのまま引き継いで制度を実施するとなれば、一連の流れ（制度見直しから交付、団体からの報告）を行っていただきます。委託料の範囲内であれば、補助金の主旨を踏まえた上で、制度を変えていただいても構いません。</p> <p>犬山市の場合、センターを委託で運営しています。受託者は市からの委託料だけでなく、スポンサーをつけて様々なイベントを開催しています。また、扶桑町の場合は、センターで勤務している事務員の人件費は町がもち、それ以外は受託者がまかっています。</p> <p>この2市町は、受託者自ら運営方法を考えて事業を実施しています。江南市もこのような形で、受託者が自由に考えて運営方法を決めていただきたいと考えています。</p> <p>委託料の中で市民活動にとってどのようにしたら有意義なお金の使い方になるのか、運営のルールについて今回、委員の皆さんにご意見いただきたいです。</p>
中村委員	<p>市内活動団体の掘り起こし、立ち上げのサポートをするとともに、各団体の活動状況の把握をしていただきたいです。</p>
齋藤委員	<p>まちづくり補助金の相談に来る方で、区の行事としてはなかなか行う事が難しいので、団体を作って活動するというような状況がうかがえます。そのため、地区単位のサポートとつながる事が出来たらと思います。また、個人で活動をしている方もいるので、仲間を増やしていく事が出来る様にサポートが必要だと思います。</p>
後藤委員	<p>ライオンズクラブやロータリークラブなどに声をかけるのはいかがでしょうか。</p>
水野委員	<p>ロータリークラブのボランティア活動と私の所属する団体活動がマッチしたため、昨年、今年とロータリークラブと一緒に事業を行いました。個人同士にもともと繋がりがあったため、実現した背景があります。</p>
齋藤委員	<p>「外部団体と繋がりを作るように働きかける」というようなことを追加してはいかがでしょうか。</p> <p>また、イベント等に参加し、情報を集めてくる業務をセンター職員だけではなく、市民ボランティアを募って登録制度にしている市町村もあると聞いたことがあります。</p> <p>さらに、登録している方たちの意見を聞き、講座を開講したりする場</p>

	合もあるようです。このような取り組みで、センターへの来場も多くなり、センターの活性化にも繋がると思います。
水野委員	行政とのマッチングは、行政側が何かやりたいことを提示してくるといふ考え方ですか。
事務局	行政側だけではなく、団体やセンター側からの提示もあった場合、協働して事業を行えたらと思っています。
水野委員	まちづくり補助金の募集の際に各課が団体と協働して行いたい事業を提示しており、過去に実施した事業もありますが、そんなイメージですね。
齋藤委員	仕様書に行政とのマッチングを盛り込んでも、実施できるのかが不安です。担当課がセンターや団体に出向いていく必要があると思います。
中村委員	センターのサイト運営だけではなく、SNSも活用していただきたいです。SNSは更新が素早くでき、最新の情報を発信できると思います。
齋藤委員	他市町村のセンターサイトを見ると、SNSを連携させてあり、「最新情報はSNSからご覧ください」と誘導させているものもあります。
中村委員	市民活動が発展しているのか、その原因は何なのか何が必要なのか等、市民活動に対する研究活動を入れていただきたいです。
伊藤委員	柔軟な運営の中にも、ある程度第三者の目は必要であると思います。どこで市のチェック機能を入れるかはまた決めなければいけません。市民協働・市民活動推進協議会の委員選定、講座の開催実績は必要であると思います。協議会の中で、予算・決算の議題も入れながら、今日の話し合いで、研究活動や団体の掘り起こしの報告、検討をする必要があると感じます。 また、NPO・ボランティア団体支援について、受託者と市の登録団体等が協働して事業を行うことも視野に入れていただきたいです。 センターの運営について、センターにいる職員の人材育成をしていただきたいです。
会長	市民活動を発展させるためには、振り返りと外部からの評価が必要になってくると思います。
中村委員	市民協働・市民活動推進協議会は現在そのまま存続させ、受託者の決定や運営の中身を評価していくことはいかがですか。受託先はどのように決める予定ですか。
事務局	決定ではありませんが、受託先はプロポーザル方式で募集する予定とし、その際に、審査委員会を設け、審査していく事も一つの方法であると考えております。
真野委員	センター活動を評価する場を設けることによって、一般市民は視覚的

	に評価を見ることができ、分かりやすいのではないかと思います。
会長	真野委員のご意見は、センター外に評価する組織が必要という事ですね。
齋藤委員	センター内に協議会があるメリットは、受託者が自分たちで問題点や改善点を自分事として落とし込める事であると思います。
伊藤委員	市として柔軟に運営を任せたい希望がある中、協議会を外部に出してしまうと、市とは別に協議会のチェックが入ることになり、運営に融通が利かなくなる点も出てくると思います。市も受託先の活動状況の報告、評価は行うはずですので、センターの中に協議会を入れ、受託者だけではない人が委員を務める方法がいいのではないのでしょうか。
会長	現段階では、協議会を内部に設置するか、外部に設置するかはそれぞれの長所短所があると思います。それぞれの意見として次回以降に方向性を固めていきましょう。
齋藤委員	職員のスキルアップに力を入れることを仕様書に追加してほしいです。
会長	他市町村で受託先が変更になった際に仕様書がどの程度変更されているのか分かりますか。
事務局	現在把握できていませんので、調査していきます。
会長	多くのご意見が出ましたが事務局でまとめていただき、次回の会議で意見のすり合わせを行う予定です。

## 2. 地域まちづくり補助事業について

○事務局から、「現在募集中の地域まちづくり補助事業の応募状況について」及び「補助金制度の見直しについて」説明がありましたが、質問、意見はありませんでした。

## 3. その他

○事務局から、資料1について説明がありました。

齋藤委員	3回の講座の中には、まちづくり補助金の報告会の後に開催している交流会は含まれますか。
事務局	含まれます。 まちづくり補助金について、採択・交付まで委託先にお問い合わせの認識で良かったですか。
伊藤委員	今まで使用していた「NPO」「ボランティア」というワードに愛着を持っている人もいますが、今回提示していただいた名称もとてもいいと思います。

中村委員	<p>とてもいい名称であると思いますが、気になる事が3つあります。</p> <p>1つ目に、留意する事項の中に、「対象者が明瞭であること」とありますが、この名前は、対象者は明瞭でしょうか。</p> <p>2つ目、彩色（いろいろ）とルビを振らなくてはいけないので、チラシのデザインに制限がかかってくるのではないのでしょうか。</p> <p>3つ目、市民活動の講座であるため、名称も公募してみてもどうでしょうか。公募することで、講座の広報にもなるかと思います。</p>
会長	この名称はいつまでに決めなければいけませんか。
事務局	2月末までには確定させたいです。今回、ご意見をいただきますが、特段問題が無ければこの名称の案で進めていきたいと思っています。
会長	この名称にたどり着いた経緯を教えてください。
事務局	<p>「目的や対象者が明瞭であること」について、ご意見にありましたように、今まで「NPO」、「ボランティア」のワードでしたが、自分が「NPO」、「ボランティア」であると認識した人が参加をしていたように感じます。しかし、講座の内容は、そのような活動をしていない方も対象としているメニューがあります。「NPO」や「ボランティア」を使うことにより、そういった方の参加意欲が阻害されてしまわないようにあえて「NPO」「ボランティア」のワードを使わないようにしています。</p> <p>また、江南市は「暮らしが花ひらく生活都市。」としてシティプロモーションを推進していたこともあり、「彩」の文字を選びました。</p>
会長	名称そのものより、この名称をどう浸透させるかが大切であると思いますので、そこをお考えいただき、使っていただけたらと思います。

## 第 10 回江南市市民協働・市民活動推進協議会次第

と き 令和元年 11 月 14 日（木）  
午後 2 時

ところ 江南市役所西分庁舎  
多目的活動室

・会長あいさつ

(1) 市民・協働ステーションについて

(2) 地域まちづくり補助事業について

(3) その他

### 【配布資料】

資料 1 : NPO・ボランティア講座等の改称について（案）

## NPO・ボランティア講座等の改称について（案）

## 1. 講座体系の概要

NPO・ボランティア講座	事業型NPO支援講座
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO活動の推進</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> <li>・区・町内会活動の推進</li> <li>・市民活動等の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業型NPO活動の推進</li> </ul>
3回	1回

講座体系を一本化 ↓

改称後の講座体系
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO活動の推進</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> <li>・区・町内会活動の推進</li> <li>・市民活動等の推進</li> <li>・事業型NPO活動の推進</li> </ul>
3回

## 2. 改称にあたり留意した事項

- ・「NPO・ボランティア講座」及び「事業型NPO支援講座」のどちらの趣旨も含んでいること。
- ・何を目的としたものかが、不明瞭でないこと。
- ・市民活動に比較的馴染みのない方にとっても、敷居の高さを感じない印象を持ってもらえること。

## 3. 改称後の名称

いろいろ  
「彩色まちづくりゼミナール」

〔略称（愛称）：いろ  
彩まちゼミ〕